

【洗足田園住宅地関連の歴史写真を読み解く】

2025年6月8日(日)14:00～16:00(終了後懇談有)

洗足会館 入場無料 会員外の方も歓迎

講演概要

洗足田園住宅地が開発されて100余年。これまでに関連する写真は多数存在しますが、その内容を的確に解析するのは、当時を知る住民も少なくなり、年々難しくなっています。仮説的な推察ではあっても、写真を丁寧に読み解くことで興味深い知見が得られることもあります。今回はその分析結果の一部をご紹介します。

《旧洗足会館の設計者 伊藤文四郎に驚嘆》

旧洗足会館は風格ある建物でしたが、その設計者は長らく「服部文四郎」との誤記により不明とされてきました。このたび、真の設計者である伊藤文四郎のお孫さんから洗足会に連絡があり、伊藤氏の優れた経歴や建築業界における功績が明らかになってきました。

《駅前工事を読み解く》

一見、何をしているのかわかりにくい駅前工事の写真も、注意深く観察すると鉄道敷設や道路整備、田園都市会社本社敷地の造成工事であることが読み取れます。

《田園都市会社の社屋》

このカラー写真は、田園都市会社が販売促進用に発行した絵葉書と考えられます。イギリスの田園都市の建築様式を模したもので、大きな屋根にドーマ、2階部分はハーフティンバー(木骨造)になっています。生垣と芝生を張った斜面擁壁も特徴的です。

《田園都市会社本社からの眺め》

写真に写る道は手前から下り、また上っている様子が確認できます。建物の方位や撮影位置の高さから見て、これは田園都市会社本社からの撮影と推測されます。何故なら、この写真は、高い位置から撮影されたと推測され、当時かなり高い位置に建ち、高い建物と言えば、田園都市会社しかなかったからです。

《この家族は田園住宅地のどこを歩いているのか》

影の方向や長さから、道路の方位が推定できます。T字型の交差点や上り坂などから、この写真が撮られた場所を特定する手がかりになります。住宅地の整備状況も注目に値します。

講演者：小場瀬令二(おばせれいじ)1948年東京目黒生まれ。洗足住宅地に50年余り居住。2023年度から洗足会代表理事。建築・都市計画・まちづくりを専門とし、筑波大学で教育に関わり、退官後、練馬まちづくりセンターの所長。現在は現職。趣味は「食べる景観」の実践で、「楽栽・楽生(らくさい・らくしょう＝楽しく植えて楽しく暮らす)」を提唱中。



旧洗足会館設計者の驚嘆の経歴が判明



洗足駅前の工事であることは確かだが



洗足駅前に建っていた立派な田園都市会社



田園都市会社から眺めた小山7丁目



T字型交差点の道路からの眺め

洗足会館：e-mail senzokukai@pj8.so-net.ne.jp

URL <http://www.senzokukai.org>

〒142-0062 品川区小山7-5-18

TEL・FAX 03-3781-1455

